

加藤恭子ゼミ 登竜門企画 二十歳の頃

～未来につながる今～

B班 海老原 島倉 檜垣

はじめに

私達は皆アルバイトをしていて、二十歳の頃という企画をしていくにあたり、共通して持った気持ちがありました。それは、「お客様の立場に立って行動する」ということでした。その共通意識のもと、『お客様の視点にたつ』という企業理念を掲げていた、ジャルパックの代表取締役である二宮秀生さんと『おもてなし』を大切にしているディズニーランドホテル総支配人室の春山三秋さんにインタビューさせていただきました。

ご紹介

- ・株式会社ジャルパック 代表取締役社長 二宮秀生さん
- ・株式会社ミリアルリゾートホテルズ 東京ディズニーランドホテル総支配人室
ホスピタリティプロフェッショナル 春山三秋さん

インタビュー内容

二宮秀生さんのインタビュー内容

大学で学んだこと

二宮さんは大学では理系に進み数学や物理を学んでいましたが社会学にも興味があったとのこと。数学は答えが一つしかないと思われがちですが、私たちに出題される問題の多くが一つしか答えのない問題というだけであって、本来は答えが一つでない場合も多く、答えのない問題すらあります。「答えは一つだけではない」ということから、日常生活でも型にはまった一つの考え方に固執するのではなく、様々な出来事に柔軟に適應するもの考え方を学んだそうです。また、多様な目線から見て考える学問である社会学も好きだったため、物事を考えるときに多角度から多様な考察をするようになったそうです。大学生生活では世の中に適應させるものの考え方を学んだ、とのことでした。

学生時代に戻れたらしたいこと

学生時代に戻れるとしたらなにもいらないとのことでした。「何をしたいから戻りたいじゃない。二十歳の頃の可能性は無限大であり、戻れたらそこから沢山の新しい道があるだろう

うし、これは二十歳の特権である。」とおっしゃっていました。

学生にしてほしいこと

今、学生にしてほしいことをお伺いしたところ「旅行に出て欲しい」ということをおっしゃっていました。二宮さんは大学生だった頃友人と二人で北海道旅行に行ったそうです。その時の一番印象に残っている出来事は、北海道での出来事ではなく、友人と別れたあとの帰りの鈍行列車ででの出来事だったそうです。列車が朝まで動かなくなってしまうなどのハプニングの中、様々な人と出会い、交流できたとのことでした。二宮さんはこの経験から、旅は、その目的地の出来事だけでなく、旅先に行くまでの電車、また、帰り道に沢山の出会いがあることを実感されたそうです。学生には、単に旅行先で楽しむだけでなく、目的地につくまでの出会いを大切にしたい、とのことでした。

春山三秋さんのインタビュー内容

部活から学んだこと

部活はテニス部に所属していましたが、一期生だったために先輩という存在がいなかったそうです。経験を積んだ先輩から教えてもらうということがない環境だったため、縦の関係、その大切さを身にしみて感じたそうです。テニス部に所属する一方、無から有を創造し、新しいことを始めることが好きだったので、演劇部を創部したとのことでした。演劇で皆をもてなしたい！という気持ちもあったのですが、春山さんにとってのゴールはあくまで「演劇部を創部すること」であって「演劇をする」というゴールではなかったそうです。目標であった創部までの道のりは突き進むことができたそうですが、一旦その目標を達成すると満足してしまいそこで止まってしまった、とのことでした。目標達成後も努力を続けていけば、もっと演劇部が栄えたかもしれないという経験から、結果がどうであれ、続ける事の大切さを部活で学んだとのことでした。

二十歳の頃に失敗したこと、その失敗をしても続けられたのはなぜか

春山さんが一番印象に残っている二十歳の頃の失敗は、バーで働いていた頃ひどく酔っ払ったお客様に水をかけてしまった、とのことでした。その時の春山さんは、自分の行動を悪いとは思っていなかったそうですが、『おもてなし』を大切にしている今の春山さんからしてみると、とても失礼なことをした、と後悔されていました。「もしその時に戻れるなら何回も謝りたい。そうすれば自分の未来は変わっていたかもしれない。」とおっしゃっていました。そういった失敗をしてもなお、その仕事を続けられたのかという質問に対して、春山さんは「たとえ失敗しても、その仕事が好き、という気持ちは変わらなかった。好きだから改善していこうと思えるし、続けられる。何度壁にぶつかっても乗り越えて行くことができる。」とおっしゃっていました。

インタビューを終えて

二宮さんと春山さんのインタビューを終えて、私たちは、ただ大学やゼミナールで授業を

受ければ知識を得られると思って止まるのではなく、自ら疑問をみつけて、その問題解決に向け行動する力が大切だと思いました。また、仲間と知識を深め合うなど、何事も楽しむこと、そして、無限の可能性がある二十歳の頃だからこそ、様々なことにチャレンジしていくことが大切だと感じました。つまり「何事も楽しむ力」様々なことにチャレンジしようという「チャレンジ精神」そしてそれを実行する「行動力」この三つを意識した学生生活を送っていきたいです。

最後に

今回、二十歳の頃という企画を通して、普段なかなか関わりの持つことのできない、企業で働く方々の貴重なお話をお伺いすることができました。またこの企画を経験して、アポイントメントの取り方や企画書の作り方、レジュメ、パワーポイントの作成など、様々なことを学び大きく成長することができ、自信を持つことができました。インタビューから発表に至るまで、細かく指導してくださった先生、先輩方に深く感謝しております。そして、ご多用の中、私たちのインタビューにご協力くださった、二宮さん、春山さんに心より感謝し、改めて御礼申し上げます。